大宰府条坊跡第 317 次調査　遺跡説明会

①調査の概要

調査名：大宰府条坊跡第 317 次調査 C 区
所在地：太宰府市観世音寺一丁目 16 番地内
調査主体：太宰府市教育委員会　文化財課
調査期間：平成 29 年 2 月 27 日から 6 月中旬
調査面積：143 ㎡

②大宰府条坊跡とは

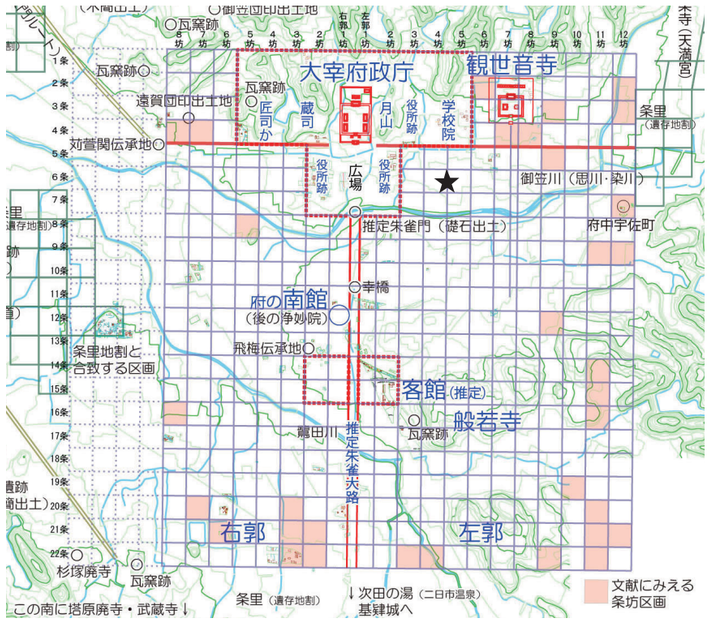
大宰府条坊跡は、大宰府政庁前から延びる朱雀大路の東西に碁盤の目状に道路によって土地が区画された古代の都市遺跡です。朱雀大路の東側を左郭、西側を右郭と呼び、東西方向の道を条路、南北の方向の道を坊路と呼びます。区画された土地はそれぞれ「〇条〇坊」と現在の住所のように場所を表すことができます。

今回の調査地は左郭 6 条 4 坊と 5 坊の区画で、左郭 4 坊路の推定ラインの位置にあたります。

③見つかった主な遺構

調査では左郭 4 坊路推定ラインにあたる場所で、南北にのびる道路状の遺構や、井戸、土坑や小穴が見つかりました。

S-65（路面）と S-50・55（側溝）北から



大宰府条坊復元図　　★317 次調査地の位置

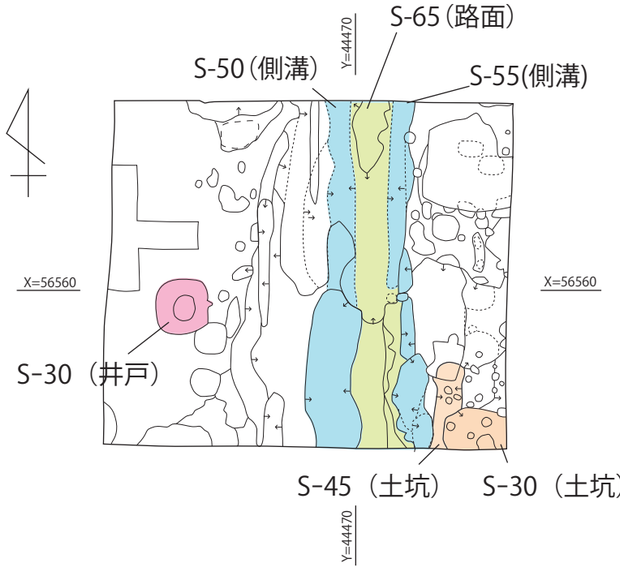
S-65（路面）と S-50・55 側溝

調査地の中央で南北に延びる側溝と路面が確認されました。幅 0.5m ～ 1m の溝 2 条が南北に延び、溝と溝の間には幅約 1m ほどの硬く締った面が広がります。溝と硬く締った面を覆っていた土からは、土師器の坏や皿、輸入陶磁器の破片を大量に含んでおり、土器の特徴などから 12 世紀～ 13 世紀前半頃のものであることがわかりました。さらに、この遺構の西側の下層に南北に長い溝状の遺構が見えており、この道より古い古代の道路があった可能性があります。

遺構は 4 坊路の推定ラインにあたる場所であり、道路の遺構であることから、左郭 4 坊路にあたるものと考えられます。

S-30（土坑）

調査地の南東隅で見つかった土坑です。土師器の坏が重なって出土しました。法量・特徴から 12 世紀代と考えられます。



C 区遺構配置略図 S＝1/200

S-45（土 坑）

S-30 の西隣で見つかった長さ 1.5m 以上、幅約 1m の長方形の土坑です。土坑の中からは 12 世紀前半頃の土師器の坏 3 点が出土したほか、鉄釘も見つかっています。

S-35（井戸）

直径約 1.5m の井戸跡です。深さはまだ調査中のためわかりませんが、中を見てみると、井戸枠の板材が見えます。現在は土圧によって内側に傾いていますが、板材を箱型に組んだ井戸枠であると考えられます。これまでに見つかった土器は 12 世紀代のものが多く、この頃に埋められたようです。

④調査で見つかった遺物

主に土師器が多く、その次に輸入陶磁器、須恵器が出土しています。そのほか、瓦や鉄釘もみられ、現在コンテナ 17 箱分の遺物が出土しています。

S-30（土坑）　北西から

S-45（土坑）北から

S-35（井戸）　南から

⑤発掘調査で分かったこと

出土した土器から、これらの遺構は 12 世紀から 13 世紀前半（平安時代末～鎌倉時代）を中心とした遺構群と考えられます。左郭 4 坊路と考えられる道路遺構を確認したほか、この遺構を境にして、東側は土坑や小穴が多く、土地利用が盛んに行われていることがわかりました。対して西側は井戸 1 基を確認したほか、平安時代後期に埋没した流路の跡を確認しました。

調査の途中ですが、これまでの調査では左郭 4 坊路が鎌倉時代まで使われていたことが判明し、本調査地周辺の土地区画と、その土地利用の一端を知ることができる貴重な成果を得ることができました。